



16 引原川中流部 (～引原ダム)

保全 横断工作物の無い区間が長く連続している。水辺に自然林・二次林が接する区間が多い。オオサンショウウオの生息地。

17 引原川中流部 (原付近)

課題 引原川本流にある数少ない、魚道もその他の遡上ルートもない。この環を改修すれば、縦断方向に約20kmの連続性が確保できる。改善効果の非常に高い環である。

18 音水川

保全 周辺一帯は、県下でも屈指の深谷林・夏緑林の広がる地域である。

課題 発電施設の取水により、表流水がほとんどない。



19 引原川上流部 (引原ダム上流)

保全 県下でも有数の標高の高い山地深流。水温が低く、冷水性の魚類ならびに底生動物全体の種数が多い。

15 草木川

保全 水辺に自然林・二次林が接する区間が多く、下流部は横断工作物が少ない。

14 揖保川上流部・公文川・黒原川 (草木川合流より上流)

保全 公文川では希少な魚類が確認されている。支川上流部は、希少種を含む上流らしい魚類相がみられる。

課題 各支川上流部において、魚道の無い横断工作物が多い。揖保川・黒原川では、源流域まで護岸が整備されている。黒原川では、標高の高い上流域としては、夏季最高水温が高く、31℃を超える水温が測定された。

13 揖保川上流部 (引原川合流～草木川合流付近)

保全 希少な魚類が確認されている。アユの漁場。

課題 発電のための取水により、下三方付近より下流は水量が一気に減少する。聞き取り調査では、「河原に草が増えた」とする指摘があった。草木川合流付近では、魚種の種数が上下流の地点と比べて貧弱。



08 揖保川中～上流部

保全 この付近から上流では、外来植物群落の分布面積が一気に少なくなる。自然性、多様性を保全するため、現状を維持できるよう留意する必要がある。

06 林田川上流部

課題 聞き取り調査によると、過去にはスナヤツメが生息していたようだが、今回は未確認。また、かつては、栃原付近までアユが遡上していた。

05 林田川中流部 (林田町付近)

課題 濁水区間。生活排水が原因と思われる濁りと泡が観察されたほか、投棄されたゴミも目立った。聞き取り調査では、「河原に草が増えた」とする指摘があった。



04 林田川下流部～中流部 (神岡町～中国道付近)

課題 大きな淵はほとんど無く、全般に河川形態はやや単調な傾向にある。下流部では、河床に大型糸状緑藻の繁茂が観察された。



02 揖保川中～下流部 (林田川合流～菅野川合流付近)

保全 礫原を代表的な景観とする揖保川の典型部であり、カワヨモギ群落が長い区間にわたって連続する。



12 引原川下流部

保全 大きな面積の淵が集中して分布するほか、名前のある淵の情報も得られた。横断工作物も少ない。比較的良好な河川形態が維持されている。水源標高が高く、夏季最高水温は、この大きさの河川としては県下でもっとも低い。希少な魚類の生息地。アユの漁場。



11 築河内川

課題 魚道の無い横断工作物が多い。水辺に自然林・二次林が接する区間がほとんどない。

10 伊沢川

保全 小規模ながらM型淵がみられ、河川形態は比較的良好。



課題 とくに、上流部において、魚道の無い横断工作物が多い。水辺に自然林・二次林が接する区間が少ない。比較的短い区間に限られるが、下流部において農業灌漑排水が原因と思われる濁水が観察された。上流部では、河床に大型糸状緑藻が繁茂している地点もみられた。最下流部には、オオクチバス・ブルーギルが侵入している。

09 菅野川

課題 魚道の無い横断工作物が多い。深く大きな淵が少なく、河川形態はやや単調。水辺に自然林・二次林が接する区間がほとんどない。下流部の地点では、河床に大型糸状緑藻が繁茂していた。



07 栗栖川

課題 農業灌漑排水が原因と思われる濁水が長い区間にわたってみられた。魚道の無い横断工作物が多く、土砂の堆積に伴う陸地化の進行が懸念される。



03 中垣内川

保全 最下流部は、揖保川水系の県管理区間で、唯一タナコ類が確認されている。

課題 中流部より上流側では、いずれの支川も魚道の無い横断工作物が多い。小犬丸川・古子川では、低水護岸率が非常に高い。小犬丸川では濁水が観察された。オオクチバス・ブルーギルが確認された地点が多い。

01 揖保川河口・下流部

保全 河口部には、県下でも有数の非常に多様性に富んだ海浜砂丘植物群落および塩性湿地草原が発達している。同時に、まとまりのあるヨシ群落も分布しており、下流部・河口域は、貴重な自然環境が残されている。また、三川分派部には県内でもトップ5の面積のエノキ林が成立し、ダイナミックな景観を呈している。



課題 人工改変率地の面積比率が非常に高い場所でもある。貴重な環境、景観にこれ以上影響を与えないよう留意する必要がある。

全体区分

- 各調査結果を総合的に判断・整理したゾーニング

魚類・底生動物の現地調査地点

- 調査地点

横断工作物の確認位置 (水面比高0.2m以上)

- 魚道あり
- 魚道なし

回遊種の確認上限

- 近年の確認上限
- 過去の確認上限

聞き取り調査による名前のある淵の現状

- 無くなった
- 浅くなった / 狭くなった
- 変わらない
- 不明

植生から見た流域区分

- ツルヨシ・ネコヤナギ型
- 移行帯
- オギ・ツルヨシ型
- 感潮域

予察調査による河川環境の記録

- 課題が見つかった箇所